



林野庁ウェブサイト「おかえりモネ」 解説ページの更新を振り返って

5月17日から放送が開始されたNHKの連続テレビ小説「おかえりモネ」。林野庁では、ドラマで扱われた森林や林業等の話題について、見る方々に理解を深めていただくという独自の解説を行いました。林野庁ウェブサイト内に、ドラマ制作に林業考証として参加された登米町森林組合の竹中雅治参事からいただいた素敵な写真を掲載した解説ページを開設し、放送の当日に更新を行い、これを林野庁公式Facebookで紹介しました。

今回、それらの解説の中で反響の大きかったものについて、紹介させていただきます。なお、解説の全文については、林野庁のウェブサイトをご覧ください。

また、文末に解説を担当した担当者からのメッセージを掲載していますので、併せてご覧ください。



5月17日(第1回)

森林組合はどんなところ？

記念すべき第1回の放送です。森林組合に習いとして就職したモネ。森林組合の個性的な職員との人間関係などこれからの展開がとても楽しみになる回でした。この日は、「森林組合」に

注目して解説しました。「間伐」や「森林認証」など、専門的な用語を分かりやすく解説するよう努めました。

(Facebookのお知らせから解説ページを閲覧した人数・1・9万人)※9月末現在



登米町森林組合

5月19日(第3回)

林野庁にも漫画家が!?

この日の放送では、石ノ森章太郎原画展のチラシが話題となりました。この日は、一般の方々に森林や林業を分かりやすく解説する林野庁の職員の漫画について紹介しました。林野庁や北海道森林管理局のウェブサイトでも様々な漫画やイラスト

を掲載しています。(Facebookのお知らせから解説ページを閲覧した人数・1・5万人)※9月末現在



お山ん画 表紙

7月2日(第35回)

国づくりは樹木で山を埋めること

この日の放送では、伊達政宗公の教えとして、サヤカさんが「国づくりとは樹木で山を埋めることにあり」と話していました。江戸時代には、国を豊かにするには木を植えるようにいわれていたそうで、この日は、森林を有効に利用しつつも同時に保全していくことをどのように実践していたのか解説しました。

解説のページに、江戸時代後期の木曾地方や飛騨地方で行われていた伐木・運材の技術を説

明する絵巻物で、林業遺産に登録されている「木曾式伐木運材図会」を掲載しました。江戸時代の人々の森林に対する畏敬の念が感じられます。



祭山神図



株祭之図

(公式tableookのお知らせから解説ページを閲覧した人数: 2.2万人) ※ 9月末現在

7月16日(第45回)

萌芽更新

この日の放送では、伐採された樹齢300年のヒバの切り株の根の間から若い芽が出てきている場面が放送されました。モネのこれからと将来へ続く森林の営みを連想することができる、とても感動的なシーンでした。

ドラマのヒバの芽とは異なりますが、広葉樹などで伐採された切り株の外周から若い芽が育つことを萌芽更新といいます。この日は萌芽更新について解説しました。樹木の内部には成長の過程で埋没した芽が数多く潜伏しており、伐採により休眠から目を覚まして芽を出すのです。クヌ

ギヤコナラなどの薪や炭の生産を目的に里山林で古くから行われてきました。(公式tableookのお知らせから解説ページを閲覧した人数: 1.4万人) ※ 9月末現在



コウヨウザンの萌芽更新

担当者から

森林利用課 課長補佐 東大介

まさか朝ドラで森林・林業が取り上げられるとは思いませんでした。放送を見ると、一般の方には分からない細部まで作り込んであったのに驚き、林業考証を務めた竹中参事の本気に、頭が下がります。今回、解説を行うにあたり、「少しマニアックに親しみやすく」をテーマにしました。この解説ページを通して、少しでも多くの方に森林・林業について興味を持ってもらえれば幸いです。

林政課 広報官 服部 浩治

NHKの朝ドラで林業の様子が紹介され、とても興奮しましたが、その描写がとてもリアルなことに感動しました。林業の継続が困難なほど丸太価格が低迷し、生産者の悲哀がよく表現されていた一方、モネが商品開発に取り組み、需要を開拓する姿に多くの方が勇気づけられたことと思います。そうした思いを視聴者の皆さんと共有できたことが、とても幸せでした。

林野庁公式Facebook、Twitterでも毎日情報発信しています。



Facebook



Twitter